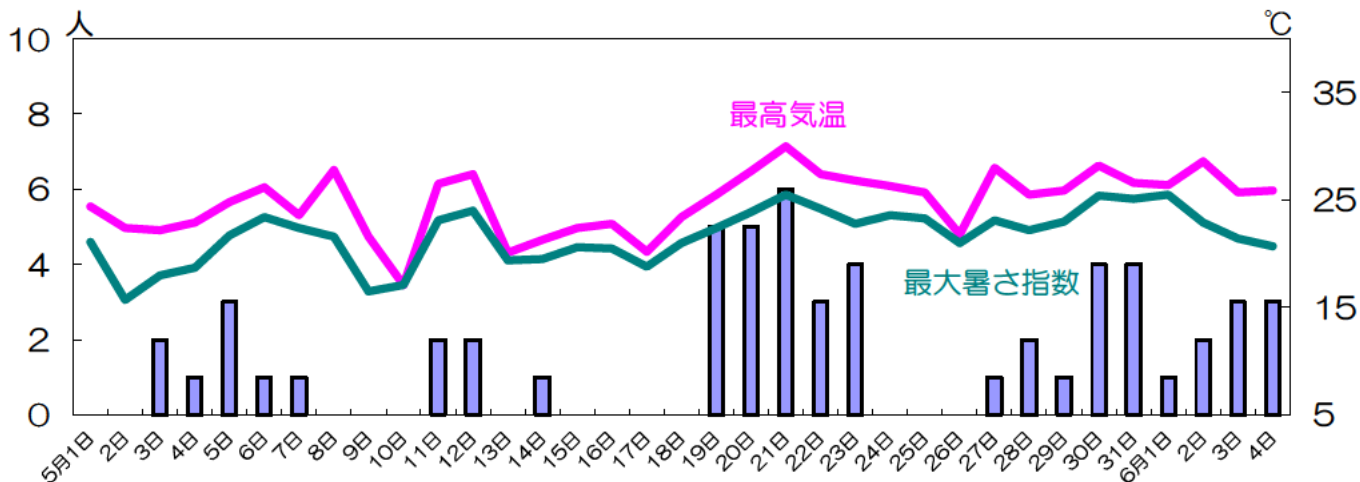


熱中症情報

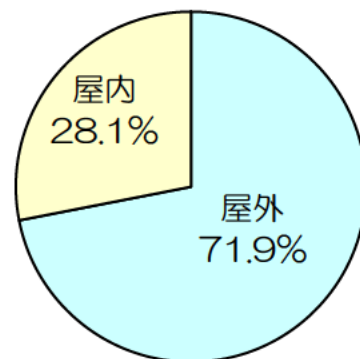
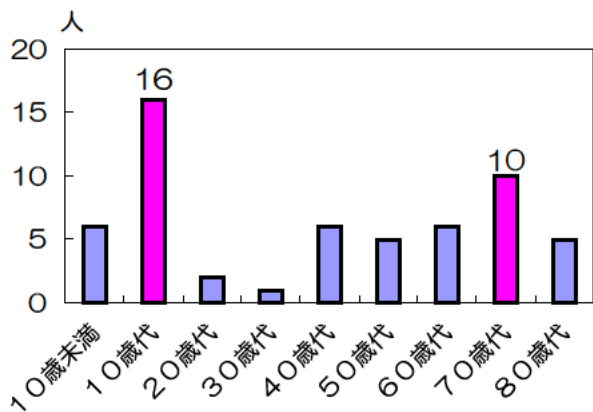
<搬送数>

平成29年5月1日～6月4日までの搬送数（消防局データを使用）は、計57人（5月48人、6月9人）でした。熱中症は、梅雨入り前の5月ごろから発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さになれていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温は28℃を超えないように調節し、暑さから身を守りましょう。



暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①気温 ②湿度 ③輻射(ふくしゃ)熱の3つを取り入れた温度の指標
詳細は「環境省熱中症予防情報サイト(暑さ指数(WBGT)とは?)」をご覧ください。

<年齢別> 年齢別では、10歳代が28.1%と、
<発生場所> 屋外71.9%、屋内28.1%で、一番多く、次に70歳代が17.5%でした。屋外での発生が多くなっています。



<重症度> 軽症68.4%、中等症29.8%、重症1.8%、重篤0%でした。
高齢者（65歳以上）になると、中等症以上の割合が増加し、重症化の傾向が伺えます。
乳幼児（0～6歳）の搬送者は、いませんでした。

